

2012.6.16



生誕150年 20世紀音楽のドビュッシー 第3回 窓を開けた巨人



プログラム

今年生誕150年に当たる、フランスの生んだ大作曲家ドビュッシーを特集するシリーズの第3回、今回が最終回になります。ピアノのための「映像」第1集、第2集は印象主義音楽の技法を見事に表現した作品で、第1集では、ドビュッシー自ら「この曲はシューマンの左、ショパンの右に位置する作品」と自負した程の傑作として知られています。「映像」第3集は管弦楽のための作品で、ジューク、イベリア、春のロンドの3曲から成り、それぞれイギリス、スペイン、フランスの舞曲や民俗色の強い心象が描き出されます。「イベリア」は単独でもしばしば演奏される名曲です。シリングスは小品ながら高度の技巧と叙情性が見事に融合された名作。歌劇「ペレアスとメリザンド」は20世紀オペラの傑作の一つで、多彩な書法を駆使して洗練された音の空間を作り上げています。ソナタ形式を使わないドビュッシー独自の作風が凝縮されたチェロ・ソナタ、斬新な響きの中に豊かな生命力と叙情性を引き出した弦楽四重奏曲は独自の音楽手法確立への先駆けとなった名曲。描写音楽というよりも海の印象を音のイメージとして表現した交響詩「海」はドビュッシーを代表する最高傑作のひとつです。

3回に渡ってドビュッシーの世界に浸っていただきました。今回ご紹介出来なかった作品もまだありますが、この作曲家に興味を持つ切っ掛けになれば幸いです。

クロード・ドビュッシー (1862~1918):

映像 第1集 より 1. 水の反映 3. 運動

映像 第2集 より 1. 葉すえを渡る鐘の音 3. 金色の魚

ミッシェル・ペロフ (ピアノ)

(1996.3.16 紀尾井ホールでのLive)

無伴奏フルートのための“シリングス(パンの笛)”

ジェームズ・ゴールウェイ (フルート)

(1976.5.26 東京・虎ノ門ホールでのLive)

歌劇“ペレアスとメリザンド” ~

第1幕 第2場 “手紙の歌” / 第3幕 第1場 “髪の間” / 第5幕の終幕

ブルーノ・ラプランテ (バリトン) / ジョスリン・シヤモナン (ソプラノ) /

クローディーヌ・ボヴァツセ (メゾ・ソプラノ) / マルコム・キング (バス) /

ジャン・フルネ指揮オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団

(1980.11.30 オランダ放送協会スタジオでのLive)

管弦楽のための“映像” 第3集 ~ イベリア

シャルル・デュトア指揮フランス国立管弦楽団

(1992.11.22 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

チェロ・ソナタ

ポール・トルトゥリエ (チェロ) / 岩崎 叔 (ピアノ)

(1972. NHKスタジオでのLive)

弦楽四重奏曲ト短調 op.10 抜粋

カサルスホール・クアルテット (トマス・ツェートマイア (ヴァイオリン) /

堀米ゆず子 (ヴァイオリン) / 今井信子 (ヴィオラ) / アントニオ・メネセス (チェロ)

(1990.12.18 カサルスホールでのLive)

交響詩 “海”

アルミン・ジヨルダン指揮スイス・ロマンド管弦楽団

(1992.11.17 サントリーホールでのLive)